

会 議 録

会議の名称	令和 6 年度 第 2 回和泉市健康増進計画・食育推進計画検討委員会
開催日時	令和 6 年 8 月 29 日（木）13 時 30 分～15 時 30 分
開催場所	和泉市コミュニティセンター1 階 大集会室
出席者 （敬称略）	【委員】 内藤委員長、永田副委員長、井上委員、沖田委員、西川委員、早崎委員、 豆野委員、橋本委員、嶋田委員、 前田委員、廣田委員、上柊委員、石橋委員 藤原委員 【事務局】 吉田副市長、子育て健康部：藤原部長 健康づくり推進室：高橋室長、藤原健康増進担当課長、出口総括主幹、川上総 括主査、松本総括主査 受託事業者（三菱 UFJ リサーチ & コンサルティング）：草薙
会議の議題	和泉市健康増進計画・食育推進計画策定に関すること
会議の要旨	1. 開会 2. 議事 （1）前回の振り返り （2）アンケートの実施について（速報） （3）「第 4 次健康都市いずみ 21・食育推進計画」（案） ①第 1 章 計画の趣旨・位置づけ ②第 2 章 第 3 次計画の評価 ③第 3 章 健康や食をとり巻く概況 ④第 4 章 次期プランに向けた課題と取組の方向 ⑤第 5 章 基本的な考え方 （4）その他 3. 閉会
会議録の 作成方法	☐ 全文記録 ☒ 要点記録
記録内容の 確認方法	☒ 会議の議長の確認を得ている ☐ 出席した構成員全員の確認を得ている ☐ その他（ ）
その他の必要 事項（会議の 公開・非公開、 傍聴人数等）	公開 傍聴人 0 名
審 議 内 容 （発言者、発言内容、審議経過、結論等）	

1. 開会

2. 議事

(1) 前回の振り返り

事務局

前回の振り返り（資料 1）を説明

内藤委員長

質問がなければ、次の議事へすすむ。

(2) アンケートの実施について（速報）

事務局

和泉市健康づくり・食育推進に関するアンケート調査結果報告書速報（資料 2-1）を説明。各種アンケート調査票（資料 2-2）は参考資料として添付。

委員長

アンケートは市民全体の状況を把握するために重要であるが、市民調査の回収率が 26.2%と低くなっており、市民全員の意向を把握できていないかは少し疑問である。しかしながら、重要な意見であるため参考にしつつ、必要であれば現場にインタビューを実施して状況を把握することも必要になる。小中学生の回収率も組織的にすればもう少し上がった可能性もあるが、小中学生の状況を把握する上では十分な回答数が集まっていると考える。またアンケートの内容を計画案に反映してもらいたい。

(3) 「第 4 次健康都市いずみ 21・食育推進計画」（案）

事務局

第 4 次健康都市いずみ 21・食育推進計画第 1 章～第 3 章（資料 3）を説明。

① 第 1 章 計画の趣旨・位置づけ

委員長

章ごとに質問、意見を募りたい。まずは 1 章について何かあるか。

計画期間が 12 年間と長いが、近年は社会情勢の変化が目まぐるしく、コロナ禍など突然の変化も考えられるが、そのような場合はどのように対応することを考えられているか。

事務局

毎年進捗管理をする予定である。また、令和 12 年度に中間評価を行い、進捗状況の評価と方向性の再検討を行う予定である。

委員長

社会情勢の変化に対する必要な対応ができるようにしておく必要がある。和泉市でも良いアイデアがないか考えていただきたい。また、社会情勢の変化を察知するような仕組みも検討し、PDCA サイクルが回せるようにしていただきたい。ここ数年はコロナ禍で健康づくりの活動が全国的に滞った現状があり、例えば ICT を活用した取組など、必要な対応を検討いただきたい。

② 第2章 第3次計画の評価について

③ 第3章 健康や食をとり巻く概況

副委員長

現在の幸福度について、年齢区分別の結果は把握できているか。また、こころの健康について、ストレスの程度や眠れているかなど、もう少し突っ込んだ質問が一つ二つあるとよかった。

事務局

年齢等でクロス集計を行い、次回の委員会で報告できるようにする。

委員

アンケートに回答いただくのは健康に関心がある人が多いと思う。幸福度が高いことにも影響しているのではないか。ボランティア活動や、地域活動への関心がある人の割合は高いが、実際に参加には至っていない、一歩踏み出せていない人が多いのではないかと考える。健診なども受診に至っていない人もいると思うので、情報が届かない人に対して情報が届くような取組ができるといい。

副委員長

今回のアンケートに答えたのは、健康に関心があり、自分の時間があって精神的に余裕がある方で、真逆の方は参加しなかったのではないか。

委員長

市民調査については回収率が26%程度と、回答者にバイアスがあると考えられる。また、回答者の年齢として、若い人よりも高齢者が多い可能性が考える。国のデータや他の調査結果も活用しつつ、アンケート結果はあくまでも1つの資料として、アンケート結果からすべてを判断しないようにした方がいい。小中学校に関しては数があるのでデータとして活用できる。

P.37に掲載されているBMIの状況と、特定健診におけるBMIの違いはどうなっているか。特定健診の方が対象者が多いため、実態としては参考になると考える。

事務局

改めて確認する。

委員

小中学生対象の調査について、最近の小中学生は睡眠時間が短いことが問題とされている。起床時間・就寝時間以外にも、睡眠時間について把握できるとよい。

事務局

アンケート結果の起床時間、就寝時間から睡眠時間を概算することは可能であるため、改めて集計する。

委員長

睡眠時間の確保は健康維持に重要であり、睡眠時間以外の活動について多面的に調べる必要がある。小中学生の睡眠時間の確保については、学校と市の連携が重要になる。

委員

P.38の生活習慣病予防・改善のための食生活の実践割合について、ポジティブな意見だけではなく、ネガティブな意見にも焦点を置いて記載いただいた方が、課題が明確になると考える。

P.36の幸福度で重視した項目についても、多い順に記載いただいた方が分かりやすい。

事務局

意見を参考にし、修正させていただく。

委員

第2章 P.5 の第3次計画策定時の%というのはいつの数値か。

事務局

健康増進計画はH30、食育計画は平成29年度の値である。

委員

評価がDとなっている項目について、計画期間中にどのような取組をした結果、現状に至っているのかも合わせて記載いただけると読みやすい。また、P.37 運動習慣者の割合について、アンケート結果と指標の値が異なっているのはなぜか。

事務局

指標の値は対象者を絞って集計しているため数値が異なる。

委員長

市民アンケートは前回との比較が必要になるが、全国・大阪府の数値と比較可能なものについてはデータを収集して比較いただきたい。小中学生の肥満など、学校保健統計で公表されている可能性もある。

副委員長

肥満傾向について、30%以上の病的肥満のこどもについては肥満外来の受診を勧めているが、受診率が低いことが課題になっている。和泉市医師会では夜間外来を設けて受診率を上げる対策を検討している。こどもの肥満は将来的なメタボの予備群になるため、しっかりとした対策が必要である。また、泉州圏は喫煙率が高い傾向にあるが、こどもも含めて教育が必要である。

委員

フリーで栄養士をしており栄養相談を受けることが多いが、小さいこどもでも就寝時間が遅いケースが多く、食に興味がない子どもが多いという相談を受ける。詳しく紐解くと、低学年でのこどもでも就寝時間が11～12時になり、胃を休める時間が少なく、朝お腹が空かず、朝ゆっくり食事をする時間もないため、食事がしっかりとれていないという現状がある。共働きの家庭が多く、小学校中～高学年では朝食を食べていないこどもも多く、給食を食べて血糖値が上がり、昼間眠たくなるケースもある。睡眠から整えていく必要がある。

委員長

統計データからは把握できないこともあるため、現場の話も聞きつつ和泉市の健康課題を検討いただきたい。今回委員の皆様からいただいた意見を事務局で検討し、計画案に反映したものを次回委員会で提出いただく。

事務局

第4次健康都市いずみ21・食育推進計画第4章～第5章（資料3）を説明。関連資料として、ワークショップ、グループインタビューについて（資料4）およびスローガン（案）を説明。

- ④ 第4章 次期プランに向けた課題と取組の方向
- ⑤ 第5章 基本的な考え方

委員

歯と口腔の健康の今後の課題として、現在幼稚園では歯科健診を実施している。保護者の意識も

改善するため、3 歳児を対象として親子健診をはじめ、好評をいただいている。食事の後に歯みがきをする習慣をつけるため、園開放を通して保護者への啓発も行っていきたい。小さいこどもでは言葉での説明が難しいため、模型やエプロンシアターなど視覚で学べる教材を使いつつ、歯の衛生が体の健康を支えていることを伝えていきたいと考えている。

事務局

現状の取組や課題に対し提案いただいたと思うが、市民会議や食育推進会議でも情報収集をしており、今回の内容を含めたうえで次の課題に対して取組を考えていきたい。

委員

もう少し具体的な取組について記載してもらえると、市民も分かりやすいと考える。また、商工会議所は企業の団体であるが、企業では健康経営を通して職員の健康づくりに取り組んでいる。そのような取組についても言及いただけるとありがたい。

委員長

国の方では健康日本 21 でも取り組まれている内容であるため、取り入れていただきたい。

事務局

働く世代における健康づくりは重要なポイントになるため、大変貴重な意見であり取り入れさせていただきたい。また、具体的なアクションプランについては第 6 章以降で記載予定のため、次回委員会でお示しさせていただく。

委員長

市民と企業等が協力して取り組む必要性もある。また、地域における福祉という面からも健康づくりに取り組むことも重要であり、理念的な面に入れた方がよい。また、第 3 章から第 4 章へのつながりが少し分かりにくいので、データ以外の情報についても踏まえて整理をいただき、4 つの柱に整理した根拠について示していただきたい。食育における栄養・食生活と、健康づくりにおける栄養・食生活が重なっている部分が分かりづらいと感じたが、ご意見はあるか。

委員

食育という言葉を知っている人と、言葉の意味を知っている人の差はほとんどないと考える。食育という言葉は包括的な意味になるため、曖昧な意味になりすぎないように使い方には気を付ける必要がある。

委員長

食育において、適切な食生活の普及という点に重点を置いた方がいいか。

副委員長

食育は教育という視点だけではなく、正しく食べて正しく育つというイメージにした方がとっかかりやすいと感じる。

委員

コンビニやファーストフード店が溢れている現代の小中学生を対象とした食育講座では、1 日トータルで正しい栄養素をとれるようにという指導をしている。

委員

給食では規則正しい食事をとれているが、夕食などでファーストフードなどを取っているケースもある。学校では先生方は食育を実践しているが、家庭においても食育が実践できるように取組を進める必要がある。

委員長

そのような課題を解決するヒントとなる計画にまとめていただきたい。

環境によって望ましい食事と、違う生活をする人がおり、行政がどのような支援ができるか、ぜひ議論していただきたい。

委員

食品ロスは市民にも広まっており、1515 運動のように、食事の開始と終わりには集中して残さず食べるようにしている。食育として、ファーストフードをとってもいいが野菜をとる必要があるなど、メッセージを届けたい対象者に届くよう、和泉独自の分かりやすいメッセージを考えてもらいたい。

委員

4 章についてみると、強弱がない状態で書かれているため、3 次計画の中で悪化した部分や、重点的に取り組まないといけない取組について強調して記載いただきたい。また、乳幼児の歯の健康について、和泉市のデータのみになっているが、全国や大阪府のデータと比較して書きぶりを調整いただきたい。また、特定健診の受診率向上や、食育における健康づくりなどは府と市で連携して取り組んでいる内容であるため、市の中で完結しているような書きぶりになっているところは、連携して取り組むような記載にした方がいいと考える。

委員長

3 章までのデータを含めた形での課題の整理、4 つの柱となったロジックモデルの経緯や期待される効果などを 4 章 5 章でまとめていただけるとよい。

事務局で提示したスローガンについて、ご意見はあるか。

副委員長

ウェルビーイングについて、市民では知らない人も多いと思うため、スローガンの中にウェルビーイングという単語を入れて、なんだろうという関心を持ってもらうのも 1 つの方法かと思う。22 番と 25 番を合わせて、笑顔でつなぐ健康都市～ウェルビーイングのまち～などはどうか。また、食べる力は生きる力というフレーズも良いと思う。

委員長

ウェルビーイングは日本では馴染みが薄いのが、1945 年に WHO が健康の定義をした頃から存在する言葉である。今年の管理栄養士の国家試験にも出た注目を集めやすいワードであり、うまく活用することが重要である。

和泉市としてのキーワードは何かあるか。

副委員長

ウェルビーイングは身体的・精神的・社会的に健康な状態であるとなっているが、どのように生き、どのように死んでいくかという視点を入れていく必要があると考える。医療界でも、人工呼吸器や経管栄養を使用するかどうかなど、どのように生きて、どのように亡くなるのかという ACP の観点が問題になっている。和泉市でもぜひウェルビーイングという視点を取り入れてもらいたい。

委員長

ウェルビーイングを使ったスローガンを次回までに複数作っていただくということでよろしいか。

委員

健康都市いずみはどうか。

委員

笑顔でつなぐ 健康都市いずみということか。

委員

11 番や 13 番などもいいのではないか。いずみを使った 17 番や 18 番もよい。

委員長

次回委員会でスローガン候補を数個に絞ってもらう。

(4) その他

事務局

意見提出用紙（資料 5）を説明。また、関係機関には第 6 章以降の取組内容の策定のため、書面にてヒアリングのご協力をお願いしたい。9 月に入ったら依頼をさせていただく。

3. 閉会

事務局

次回、第 3 回検討委員会の日程は、9 月 25 日（木）13:30～市役所本館 3 階にて予定している。
最後に吉田副市長より閉会の挨拶をさせていただく。

副市長

真摯なご議論についてありがたく思っている。

本日の議論は議事録をきちんと残して永久保存版にしてもよいぐらいの議論であった。総括と今後の方向性について述べ、挨拶としたい。

アンケートについては、集計を超えて分析・考察までが調査であり、調査報告の内容であると考えており、そのように指示をしている。内藤委員長やその他委員の意見にあったように課題設定のための調査であるため、分析・考察をきっちりさせていただく。

次にアンケートの限界とそれを補うという意見について、このような機会を活かしアンケートの足りない部分を補いたい。

幸福度満足度調査について質問いただいたが、昨年度末に幸福度満足度調査を別途実施し、性別・年代、地域・職種別でも集計・分析が終了しており、検討材料に活用いただきたい。

アンケートに限らず国や地方公共団体のデータ等を駆使して計画づくり、課題設定に役立てていきたい。

PDCA サイクルについて、11 年度に 1 度だけ中間評価するように見えるが、KPI、KGI 両方のチェックも含めて毎年評価を行う点についても明記したい。

石橋委員より睡眠についての質問があったが、追加調査の要望が出てくる可能性もある。次期計画に間に合うかは不明だが、リアルタイムで市民の意向を聞く仕組みを整えつつあり、今回アンケートに出た問題意識をきっかけに、様々な形で追加調査をしていきたいと考えている。

本日の議論にはなかったが、私なりの前期計画の評価をさせていただくと、第三次評価の考え方が目標管理であること、健康の 31 項目中 5 項目のみ、食育は 17 項目中 5 項目しか達成されておらず、深刻に受け止めている。

目標に達していない理由として 3 つ考えられるが、①関係部署の頑張りが足りなかった、②目標

を達成するための手段、何をすることがずれていたのではないかと、③目標のハードルが高すぎた、以上の3点を、分析・考察を通してなぜ達成できなかったのかしっかり書き留めていきたい。

次に気になった点として、資料3のP.18あたり、和泉市は平均寿命の伸びより健康寿命の伸びの方が低く、大阪府や国にもない特徴である。この状況の中で健康寿命の伸びを目指すことを端的に本当に入れるのか、吟味が必要であると考えます。

現状分析は主に検査をしてわかるようなデータが中心だが、例えば関節がどの程度曲がる、〇〇ができるなどの健診データでは得られない指標も必要なのではないか。

肥満とやせの問題についても注目しており、骨太の方針に特に力を入れて取り組むプロジェクトに加えてはどうか。睡眠、ライフスタイル、歯の健康、ライフスタイル、地域活動、食品ロス、市民にわかりやすい広報戦略の話があったが、骨太の方針に含めるべき内容であると感じている。

全国規模のスマートウェスネスシティ首長会議ではプロジェクトの先進事例が多数あり、参考にしながら和泉市の取組を考えていきたい。

第4章へのつながりがという指摘もいただいたが、国の枠組みに沿った枠組みではなく、和泉市独自の枠組みについて検討したい。また、特に力をいれて取り組む内容について区別して記載したい。

食育という言葉遣いについても、使い方について吟味していきたい。

最後にスローガンに関連してだが、時代的な課題は委員の先生方から頂いたが、ダイバーシティな社会を背景として、自立・自己決定という発想が大事と考えている。スローガン案の中には、自分で考えるという発想が1つも含まれていないが、自己決定という視点も踏まえて検討したいと考える。

以上をもって挨拶とする。